

序

最近の都市環境においては、先端技術産業、化学工業、交通網の発達等により、従前とは異なる公害問題が提起されつつあります。また、日常生活の高度化、あるいは都市化の進展などに伴い、一般家庭からの廃棄物、洗剤、雑排水及び自動車の利用等によって、従来ならば公害に対して被害者であった一般市民が、加害者の立場にも立たされるという二面性を持たされてきております。

このようなことは、経済性、利便性、都市化等を追求する現代社会の動向に由来するものが多く、個人では対処し難い問題です。そこで、快適な環境を創造し、将来にわたってその環境を維持していくためには、新しい視野に立った調査研究が必要となります。

以上のような観点から当研究所では、大気汚染、水質汚濁、騒音・振動等に関する通常の試験分析業務のほか、新しい時代に即した調査研究にも取り組んでおります。

ここに、昭和59年度業務の成果を年報第12号として刊行いたしましたので、御高覧のうえ御批判、御指導下さるようお願い申し上げます。

昭和61年3月

川崎市公害研究所長

市橋正之